



平素は、弊社商品にお取り組み頂き、  
まことに、ありがとうございます。  
月間通信 11月号をお送り致しました。  
何卒、よろしくお願い致します。

『光陰矢の如し』と言われれば、若い頃は『何  
言ってた、人に説教するのもいい加減にしろ』と思  
っていました。でも、この言葉は年老いていく人たちが  
自戒を込めた坦懐の状態、素直に出て来たのでは  
ないかと想像するようになってきました。

さて、日本経営コンサルタント株式会社の水元仁志  
氏を御存知の方も多くいらっしゃると思いますが、弊社  
は月に一度の御指導を仰いでいます。氏を論評する  
立場にはおりませんが、『昨日努力して出来た今日  
より、今日努力した自分が、明日作り出せる世界が、  
より良いものであることを、誰よりも信じる力が強い方』  
ではないかと思っています。

私が 30 代半ばの時、お付き合いしていた女性のひ  
とりから『清ちゃん、いつまで I can get no  
satisfaction をしているの』と言われたことがありまし  
た。私たちは Rolling Stones のこの名曲を聴いて育  
った世代です。この世界を席卷している社会システム  
は好きになれないし、今尚ひどい政策のオンパレードで  
すが、不満を発しているは何も生まれなく、奥底に仕  
舞い込むことでエネルギーに変え、若き頃に頭の中に  
出来上がった世界観を、少しでも実際の目に触れる  
機会を増やせればそれでいいと考えるようになり、その  
方が手に触れられる空間を、暮らしやすいように暮らせ  
る社会に変えていけると感じるようになりました。

この女性と水元仁志氏の、共にひと言に依って、私  
は生まれ変わったような気がしています。

世界の今の生産力は、消費力の 1.5 倍ほどだと聞  
いています。従ってこの生産量が 65%程度縮小され  
るまで、コロナ騒動は落ち着かないのかも知れません。

11月になれば毎年思い出すことがあります。私が生  
まれ育った街は滋賀県の彦根市です。毎年11月20  
日過ぎの連休に『恵比須購』という商店街あげでの  
大売り出しがありました。未だスーパーマーケットが無か  
った時代の話しです。私が育った地域も商店街でした  
が、テキ屋が集まって来るのは少し離れた別の商店街  
でした。私はテキ屋の口上を聞くのが大好きで、自転  
車に乗ってそこまで行き、お昼ご飯にも帰らず一日中  
浸っていました。ある日その通う途中にある中日新聞  
の販売所にデカデカと号外が貼り出されていました。  
【暗殺】との文字が躍っていました。

ケネディ大統領の名前もダラスという街の名前も覚え  
たのはこの時ですが、真相を知ったのは情報が公開さ  
れた 2 年前です。米国の通貨が政府とは関係のない  
民間企業の FRB が発効するのでは国民の為になら  
ないと、政府がドル札を発効して、全国にトラックで送  
り届ける前日の事件だったようです。誰も信じていない  
ウォーレン委員会のレポートでウヤムヤのまま、時は 50  
年を過ぎたという事になります。

嘘を嘘で塗り固め、事実というノンフィクションを作り  
続けて、それでも世界が成立する大義を掲げているの  
がこの世だと思っています。昨年の秋に New York の  
ツインタワーがあった場所を訪れる機会がありました。

崩れ行くビルのビデオをテレビで見た時、どう見ても火  
薬による爆破としか見えませんでした。飛行機に人が  
乗っているとも思えませんでした。平日にもかかわらず  
突然休業していたその筋の金融機関があったと聞いて  
います。

その場所で佇んでいると、表現のしようがない無数の気が私を包み、立ちすくんでしまいました。いち早くその場を離れたくなりました。私が正気に戻れたのはワンブロックほど離れた4と書かれたビルの前に到達した時でした。この事件の当日は、ケニア大使館爆破事件犯人の弁護団が翌日の裁判の打ち合わせをしていたという事です。

段々下手になっていく事実という名の嘘で、米国はどんどん力を削がれているような気がします。確かな事実は、先に書いた3割5分ほどのバブル状態で行き先を失っている経済をどのように立て直すかが、世界的な課題です。

私がこの6ヶ月ほどで感じたことは、食品スーパーマーケットを中心とした相互扶助の地域社会が必要だということです。土日となれば遠くへ出かけ、連休となれば海外へ出掛け、暮らしは大掛かりに、また広範囲に及んでいますが、それがバブルだと言われれば、其れ等は縮小の一途を辿るしかございません。これらの消費を代償として何を得て来たのか、それが本当に得難い物事であったのかを問われているような気がします。

遡り1760年頃産業革命が興り、ここから経済が急速に発展してきたと考えると、1980年頃まで物資が経済を引っ張り、それが終わると金融が経済を引っ張り、そして今日まで右肩上がりで経済が発展してきたと考えると、いよいよ『もう終わりよ』という時期なのかもしれません。物質売買の差益にしる、金融商品売買の差益にしる、私にしてみればどちらも差益という点では同質のもののように思えるのですが、問題はこの差益の使途にあるような気がします。その差益の分配方法にも問題はあのような気がしますが、分配方法は使途で少しは解決がつく可能性を感じています。

差益の使途も亦消費です。消費が消費で終わらず再生産への道があるのではないかと感じ始めています。私たちは経済を形成する立場にいますので、その再生産の差益の使途が、また差益を生むことを考えざるを得ず、その差益の使途が更に再生産を促す道への投資を目指す事になります。

この正のスパイラルを生み出す源がスーパーマーケットではないかと考えています。地域の公益活動への資金提供等が法人税損金算入に、どこまで加算されるかは専門家ではないので不明ですが、先月に書きました気づきの早い人順に生み出してくれる『賛同という利益』が地域に還元されるなら、税法上認められても然りと思うところです。資本金の出自に協同性が無くても使途に協同性があれば認められて当然と思う次第で、少なくとも議論の題に上がっても自然の流れなのではないかと考えています。

医食同源と言いますが、同じ場所にあることを目撃できません。来年、このテーマに取り組みうとされている企業さんに出会う事が出来ました。微力ですが、応援出来る事を願っています。

私共は、農と食とを結びつける仕事をしているつもりですが、自分で栽培しても、農家から仕入れても、なかなかここに共同性を構築することは、右手と同じように左手も使う難しさが存在します。でも、努力すれば克服できる程度の困難さだと思っています。



このパネルと折り込みチラシの間を埋める事が出来る日も近いと思います。

有限会社アルファ  
吉田清一郎